

第1回 新生Jヴィレッジ復興 プロジェクト委員会



2014年5月21日

Jヴィレッジ

1 Jヴィレッジ復興計画(再整備計画) の基本的な方向性について

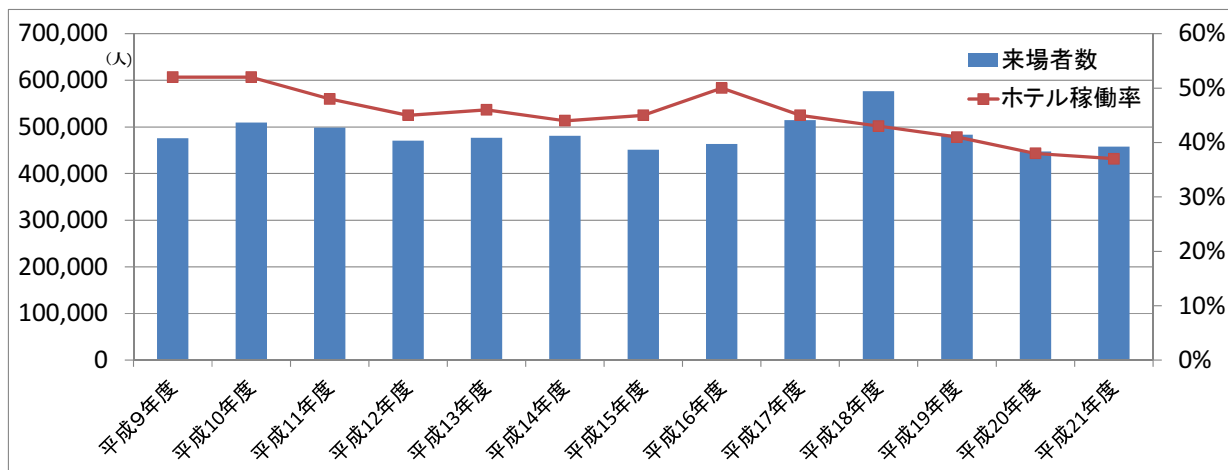
- (1) Jヴィレッジの概要
- (2) 震災前の状況と課題
- (3) 3.11以降の状況と課題
- (4) 復興の意義
- (5) 基本的方向性
- (6) 営業再開までのスケジュール

(1) Jヴィレッジの概要

- 1 総面積 49ha
- 2 事業費 130億円
- 3 オープン 1997年(平成9年)7月18日
- 4 運営会社 (株)日本フットボールヴィレッジ
(社長 佐藤雄平福島県知事)
- 5 主な施設
 - (1) サッカースタジアム(5,000人収容)
 - (2) サッカーフィールド(天然芝10面、人工芝1面)
 - (3) フットサルピッチ4面、ビーチサッカーフィールド1面
 - (4) 雨天練習場(人工芝 ハーフサイズ)
 - (5) 管理棟
宿泊施設(4人部屋42室、2人部屋48室、計90室、264名収容)、
レストラン、コンベンションホール(160名)、JFAメディカルセンター
フィットネスセンター(現在、いわき市平で仮営業中)

(2) 震災前の状況と課題

- 平成21年度総来場者数457,571人 累計6,306,522人
- " サッカー利用チーム数 882チーム 累計12,058チーム
- " 宿泊者数35,675人 累計544,654人



(2) 震災前の状況と課題

<利用状況>

来場者内訳	平成9年度	平成10年度	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度
宿泊者	35,000	49,612	45,880	43,200	43,493	42,228	42,864	47,360
施設利用者	173,800	203,394	274,962	253,517	265,992	271,629	250,790	260,260
イベント参加者	147,000	37,500	47,350	46,900	40,710	51,480	34,630	37,803
見学者等	119,700	218,800	130,157	126,892	126,648	115,932	122,529	117,929
来場者数	475,500	509,306	498,349	470,509	476,843	481,269	450,813	463,352
サッカー利用チーム数	1,015	1,120	815	802	815	925	958	1,091
地元旅館への斡旋客数	23,538	19,479	13,640	13,634	13,503	13,143	12,830	14,000
ホテル稼働率	52%	52%	48%	45%	46%	44%	45%	50%

来場者内訳	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
宿泊者	47,360	43,284	40,897	38,765	36,414	35,657
施設利用者	260,260	280,058	292,670	260,258	248,549	252,783
イベント参加者	37,803	68,744	125,561	67,504	45,703	52,608
見学者等	117,929	122,835	117,939	116,840	116,989	116,523
来場者数	463,352	514,921	577,067	483,367	447,655	457,571
サッカー利用チーム数	1,091	1,039	933	856	807	882
地元旅館への斡旋客数	14,000	15,424	18,986	19,139	17,722	23,456
ホテル稼働率	50%	45%	43%	41%	38%	37%

(2) 震災前の状況と課題

運営上の課題

- ①サッカー利用チームの減少。
- ②ホテル稼働率(宿泊者数)の減少。
- ③協賛企業の減少。
- ④施設の経年劣化で修繕箇所が増加。
- ⑤大規模大会時の駐車場不足。

(3) 3. 11以降の状況と課題

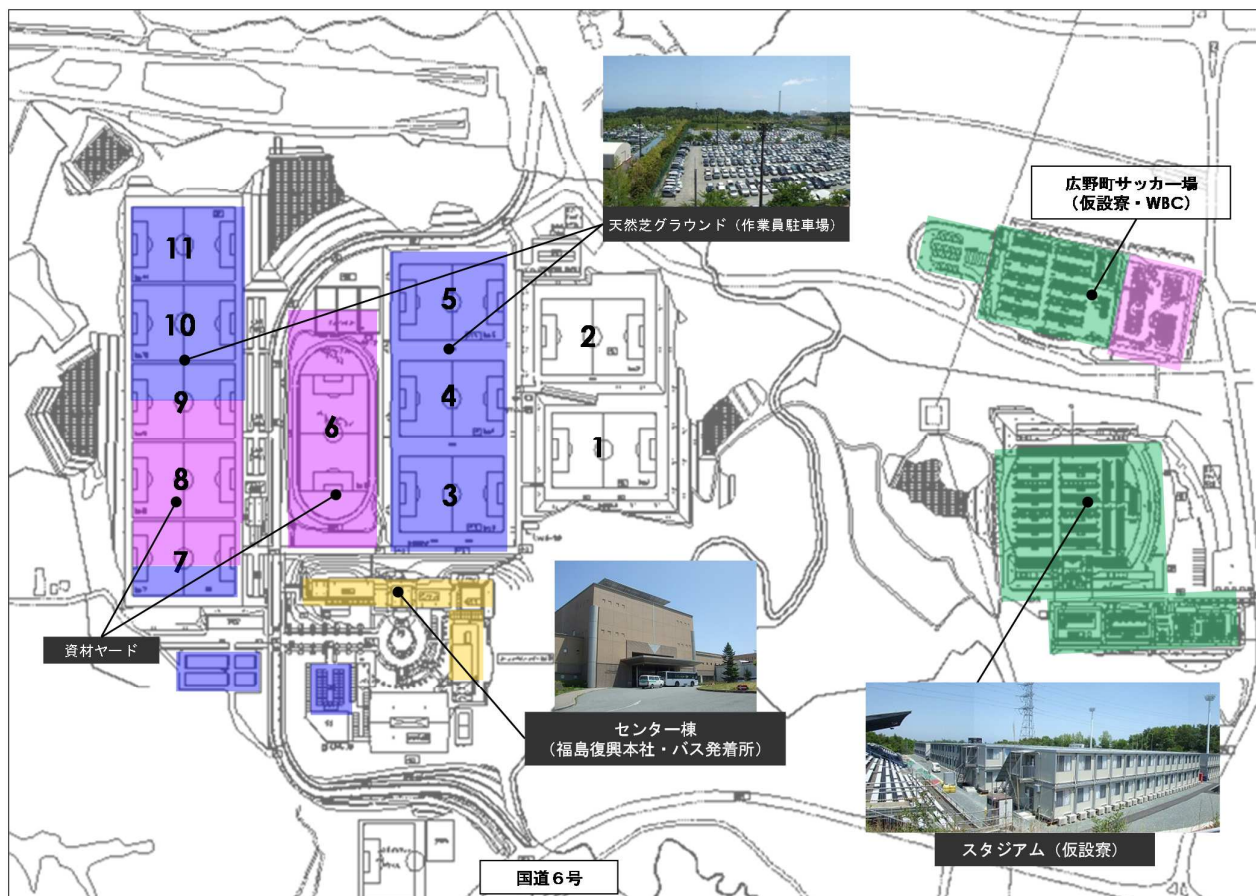
<現状>

- 2011年(平成23年)3月から、原子力災害の発生に伴い、政府による災害対策の拠点として使用され、全業務を停止。
- 同6月から、全施設を東京電力(株)へ使用許諾。現在に至る。



Jヴィレッジ使用状況図

資料2-1



(3) 3. 11以降の状況と課題

<課題>

①安全・安心の確保と風評の払拭

※東京電力福島第一原子力発電所から約20kmにあることから、利用者の安全・安心を確保し、除染の徹底や放射線量の情報発信による安心をどのように確保するか。

②新たな付加価値の創造

※代表クラスの合宿や全国大会の誘致が可能な施設として、新たな付加価値をどのように創造していくか。

(4) 復興の意義

○福島県第二次復興計画(H24.12.28策定)

「サッカー会初のナショナルトレーニングセンターであるJヴィレッジ(楡葉町・広野町)は原子力発電所事故収束に向けた前線基地として利用されているが、原発事故収束後の状況を見ながら迅速な除染を進め復興のシンボルとして早期の再開を目指す。」

○下村文部科学相(H26.5.12)

「2020年の1年くらい前から日本国内だけではなく海外のサッカー選手が事前練習や合宿ができるようにしたい。」

○(公財)日本サッカー協会(JFA)(H25.12.26)

・JFA大仁会長「Jヴィレッジの復旧を進め、2020年東京五輪に向けた強化拠点としたい。」

○東京電力(株)「新・総合特別事業計画」(H25.12.27策定)

「本来の利用目的であるナショナルトレーニングセンターに再生し返還する。」

○楡葉町(復興計画)

「健康のまち楡葉のシンボルであり、できる限り速やかな返還・再生を。」

(5) 基本的方向性(案)

I 新たな付加価値の創造

風評を払拭し、本県の復興を全世界に発信するシンボル施設として、現状回復に留まらず、新たな付加価値を備えた新生Jヴィレッジを目指す。

II NTC機能の強化

サッカー・ナショナルトレーニングセンターとして更なる機能強化を目指す。

III トップアスリートの育成拠点

JFAアカデミー福島の早期帰還を実現し、中高一貫校等との連携により、未来のトップアスリートを輩出する施設を目指す。

(5) 基本的方向性(案)

IV 地域との連携強化

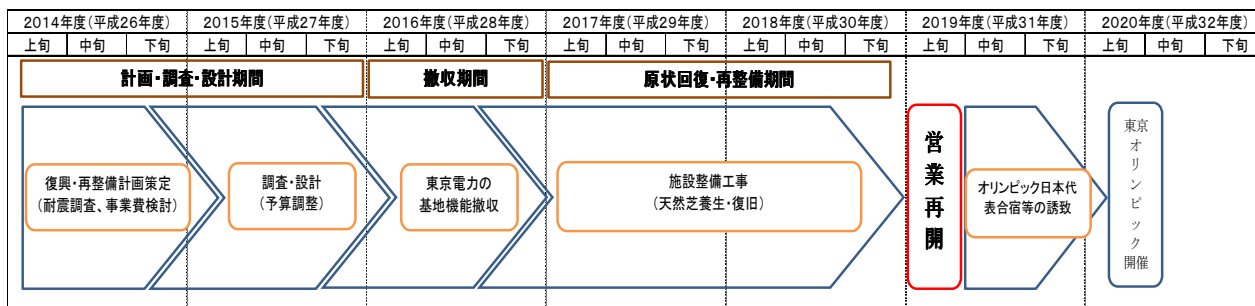
地域住民の健康増進と雇用の創出を図るとともに、本県観光や食産業（農林水産業）との連携により、地域に貢献する施設を目指す。

V 東京五輪前に再開

東京オリンピック・パラリンピック前の2019年4月までに営業再開を目指す。

(6) 営業再開までのスケジュール(案)

新生Jヴィレッジ復興・再整備スケジュール(案)



2 今後の進め方について(案)

①本プロジェクト委員会は、本年10月をめどに具体的な復興・再整備計画を決定する。

※次回は、8月を予定。

②本プロジェクト委員会の基に、作業チームとしてプロジェクトチーム(PT)を設置する。

※毎月2回程度の会議を開催。

③必要に応じて外部の専門家、有識者の意見を参考にする。

※様々な角度からアドバイスをいただく。

2 今後の進め方について(案)

Jヴィレッジ復興プロジェクト委員会スケジュール

